様　式　C－19、F－19－1、Z－19　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　 ６ 月　 ８ 日現在

機関番号：１４５０１
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2017～2021
課題番号：１７Ｋ１３３０５

研究課題名（和文）観光資源への時間距離と評価の関係性の分析：多世代参加型資源マネジメントに向けて

研究課題名（英文）How does temporal distance affect evaluation of tourism resource? An empirical analysis of multi-generational participatory managements

研究代表者
内山　愉太（Uchiyama, Yuta）

神戸大学・人間発達環境学研究科・助教

研究者番号：００７１０７６６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、観光資源に対する訪問者の社会的評価が、資源までの距離によって異なり、景観や祭事といった異なる性格の資源は、距離毎の評価パターンも異なることを解明した。さらに、時間距離によって評価が変化する理由と、各資源について高／低評価する人々の分布の特定を行った。また、SWOT分析により着地型観光における多世代参加型の資源管理モデルを構築した。資源管理に活用される世界農業遺産等の制度や自然資源に対する認識等についても調査を行い、地域内外の住民や異なる世代の関係者の認識の差異を考察し、多世代参加型のマネジメントを促進するための知見として結果は国際学会や学術誌において発表を行っている。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の成果は、学術的には地域資源マネジメントにおける資源と資源管理者や訪問者の関係性に関する理論の発展に貢献する。国際的な比較研究にも応用可能な方法論を構築しており、今後は国内外の地域を対象とした国際共同研究として発展することが期待できる。社会的には、各地域の着地型観光事業について、小規模な事業者が運営することも多い状況において、規模に頼らずに事業を持続的に運営、継承することが求められており、訪問者の資源への社会的評価を的確に把握し、訪問者も巻き込む多世代参加型の資源管理を行う際に有用な知見を提供する点で意義がある。

研究成果の概要（英文）：This study demonstrated that visitors' evaluation of tourism resources varies depending on the distance to the resources, and that individual types of resources, such as scenery and festivals, have different evaluation patterns. Furthermore, we identified the reason why the evaluation varies with distance, and the distribution of people who rate each resource highly/lowly. For the resource management methods, a SWOT analysis was conducted to develop a local tourism resource management model for multi-generational participation. We also conducted a survey on the awareness on natural resources and the regional designation systems used for resource management, and analyzed the differences between residents and visitors, and between actors of different generations. The results were presented at international conferences and published in academic journals as knowledge for promoting multigenerational participatory management.

研究分野：都市地域環境学

キーワード：地域資源　時間距離　多世代連携　生態系サービス　世界農業遺産　景観　参加型マネジメント　GIS

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

現地集合、現地解散の形態をとる着地型観光やアジア観光客の個人旅行が増加する中で、自由に移動する訪問者が増え、観光資源までの距離と資源の評価の関係性が注目されている。Destination Management Organization (DMO)等の事業運営側は観光資源について、学習、教育、レクリエーション等の観点からの社会的評価を把握し、資源について戦略的に投資、情報発信を行う必要がある。一般に観光資源の評価は、訪問者による価値付けの総合得点や、訪問者数等でなされる。それらは資源の順位付けに活用される。しかし、既存の集約的な評価方法は、資源までの距離毎に異なる評価がなされうることや、景観や祭事等の資源の種類により、距離毎の評価が異なるパターンを描く可能性 (Kohsaka,Uchiyama 他 2015)等を考慮できていない。着地型観光事業は、小規模な事業者が運営することも多い。従って、規模に頼らずに事業を持続的に運営、継承するには、訪問者の資源への社会的評価を的確に把握し、訪問者も巻き込む多世代参加型の資源管理を行うことが求められる。

既往研究では、主に観光資源の集約的評価の分析が試みられ、評価の高い／低い資源の分布が分析されている。他方で、その評価を行う主体に注目した分析で、景観や祭事等の異なる性格の資源を対象とした、居住地から資源までの距離毎の評価の解析は限定的であり課題となっている。研究代表者は先行研究 (Uchiyama & Kohsaka 2016)において、評価と距離の関係性を先駆的に分析した結果、観光資源への距離によって、資源への評価が変化することを明らかにした。さらに、その評価の変化パターンは景観や祭事といった資源の種類毎に異なることを解明した。そのパターンの解明は効果的な観光資源管理に直結する。実距離に着目した先行研究では、時間距離と評価の関係性の解明が課題として残された。また、研究成果の普遍性の検証には、年齢等の個人属性に応じた評価パターンと、距離毎に評価が変化する理由の解明も必要である。

そこで本研究では、まず、住民を主な対象とした先行研究に対して訪問者も対象に含め、景観資源や、生態系に依拠した祭事などの多様な観光資源を一括りにせず、時間距離と種類によって異なる評価パターンを明らかにすることを主目的とした。

２．研究の目的

以上の背景を踏まえて、具体的には以下①～④の課題に取り組んだ。各課題に関する目的は次の通りである；①観光資源に対する訪問者の社会的評価が、資源までの距離によって異なり、景観や祭事といった異なる性格の資源は、距離毎の評価パターンも異なることを解明する。そのうえで、②時間距離によって評価が変化する理由、③各資源について高／低評価する人々の分布の特定と、SWOT 分析により、④着地型観光における多世代参加型の資源管理モデルを構築する。

対象地域は石川県とした。同県の能登地域は世界農業遺産認定を受け、主要都市の金沢市は生物文化多様性のまちづくりを掲げるなど、観光資源の情報蓄積が進んでいる一方で、過半の自治体で少子高齢化が全国平均以上に進行している。

本研究の特徴としては以下の５点がある；

・観光資源を一括りにしない：観光資源は学習、教育などを含む多様な観点から評価されるが、景観や祭事など資源の種類も多様である。そこで、資源の種類毎に社会的評価と時間距離、個人属性等との関係性を解明し、資源の種類に応じた潜在的管理者とその分布を明らかにする。

・時間距離と社会的評価の関係性解明：時間距離と評価の関係性を基に、資源の種類毎の管理体制を考察するという新たなアプローチを導入する点に独創性がある。これは、申請者ら (Kohsaka,Uchiyama 他 2015; Uchiyama & Kohsaka 2016)の先行研究で課題として残されてい

た。

・社会的評価を行う主体に着目：本研究は、観光資源の評価者に着目した分析により、資源への時間距離、種類毎に社会的評価パターンを特定できる点に特色がある。そのパターンの解明は、観光資源管理における効果的な投資先、連携主体を把握できるといった点で有用である。

・現象の把握と要因解明による成果の普遍性検証：社会的評価という現象を単に描写するのではなく、その評価がなされた要因についても考察し、対象地域独自の要因や、他地域にも当てはまり得る要因を解明し、研究成果の他地域への応用可能性を担保する点に意義がある。

・観光資源管理の関係者の広域連携促進：各資源について高評価をする人々の分布は、自治体の境界を越えて広がることも想定される。その広がりは、資源の参加型マネジメントの潜在的な参加者の分布としても捉えられる。資源管理の動機を有する関係者による機能的なマネジメントが可能な範囲を特定し、具体的な連携方針の策定に貢献しうる。

３．研究の方法

前頁までに示した①～④の研究課題を遂行するために、まず対象地の石川県の各観光資源について、資源への訪問者を対象としたアンケート、ヒアリング調査等を通じて、歴史、文化、レクリエーション等の観点からの資源の評価を明らかにし、①時間距離と評価の関係性を分析した。その結果を踏まえて、②時間距離によって評価が変化する理由の調査・分析を、追加調査によって行った。続いて、③各資源について高／低評価をする人々の分布の解析を行った。最終的に、各資源について、③で特定した資源管理の潜在的な関係者と保全への意識の低い関係者の分布を重ね合わせ、SWOT 分析により考察し、④社会的評価を踏まえた多世代参加型の資源管理モデルの構築に向けて成果を取りまとめた。

[平成 29-30 年度]

①時間距離と評価の関係性の分析：

・石川県における観光資源について、世界農業遺産等においてリスト化されている資源を対象に、観光資源の地理情報データを整備した。

・県内外の住民による観光資源に対する評価について、アンケート調査を実施する。調査では、社会的評価（学習、教育、レクリエーション等の観点）について、能登の千枚田や、キリコ祭り等の具体的な資源への評価を明らかにした。最初に試験的調査を実施したうえで、本調査を行った。

・調査結果を基に、資源の種類毎の評価と時間距離の関係性を多変量解析により解明した。
その際、先行研究による距離と評価の関係性の仮説を検証した。(例：景観資源は、近隣および遠方の住民によって比較的高く評価される)また、周辺環境（土地利用、市街地、文化施設へのアクセス等)、回答者の年齢等の属性と評価の関係性も多項ロジット回帰分析により分析した。

・住民・訪問者の観光資源への評価に関する石川県の最新の調査、学術研究の結果と本研究の結果を比較し、得られた結果の妥当性を検証した。

②時間距離によって評価が変化する理由の調査分析：

・近隣と遠方の両住民による評価が高い景観資源が特定されているが、評価を高める方策や、参加型の資源管理体制を考察する際に、そのような結果となった理由の解明が課題として残されており、本研究では、①の調査に加えて、追加調査を実施し、時間距離と社会的評価との関係性において、資源の種類毎に特徴が表れる要因を分析する。

[平成 30-31 年度]

③各資源について高／低評価する人々の分布の解析：

・時間距離、回答者属性と評価の関係性の分析結果を基に、各資源について高／低評価する人々の分布を特定する。回答者属性のうち、国勢調査等によって得られる基本的な属性（例：年齢、性別、職業等）と、社会的評価に有意な相関が把握された場合、その属性を有する人口の分布を基に、各資源について高／低評価する人々の分布をより広域で分析する。

[最終年度]

④時間距離ごとの評価を踏まえた資源管理モデル構築：

・観光資源管理の主体（自治体、民間組織等）およびその連携主体の分布データを整備する。

・参加型の資源マネジメントに潜在的に関わり得る、各資源の管理に関心の高い／低い関係者像を、時間距離、住民属性、各資源を評価する理由等を基に考察し、SWOT 分析により資源管理の課題と可能性を分析する。

・現状の観光資源管理の主体と、管理に貢献する潜在的な関係者の分布ならびに関係者像を踏まえた資源管理モデルを、観光資源の類型毎に構築する。

・成果を資源管理主体に還元し、着地型観光、まちづくりへの応用可能性について聞き取り調査を実施。資源評価法から管理体制を含む資源管理モデルを構築。

４．研究成果

①～④の目的に対応する成果を以下に示す。

(1) 時間距離と評価の関係性の分析：

石川県における観光資源について、世界農業遺産等においてリスト化されている資源を対象に、学習、教育、レクリエーション等の各観点について、地域内外の訪問者による社会的評価等をアンケート調査で明らかにした。調査結果を基に、資源の種類毎の評価と、居住地からの時間距離の関係性を多変量解析により解明した。調査結果は、訪問者の観光資源への評価に関する同県の最新の調査や学術研究の結果と比較し、結果の妥当性や位置づけを検証した。

(2) 時間距離によって評価が変化する理由の調査分析：

石川県能登地域を対象とした、実際の距離と評価の関係性の先行研究（Uchiyama & Kohsaka 2016）において、近隣と遠方の両住民による評価が高い景観資源が特定されているが、評価を高める方策や、参加型の資源管理体制を考察するには、その結果が生じた理由の精査が課題となる。そこで本研究では、(1) の調査に加えて、追加調査により、時間距離によって異なる評価がなされる理由（希少性、愛着、アクセス性等）を特定した。

(3) 各資源について高／低評価する人々の分布の解析：

(1)の調査結果を用い、資源までの時間距離を含む回答者の属性と評価の関係性を分析し、得られた結果を基に、各資源について比較的高い／低い評価をする人々の分布を特定した。特定された地理的範囲は、各資源の保全に対する関心の高い／低い地域として捉えられるものである。

(4) 時間距離に応じた評価を踏まえた資源管理モデルの構築：

時間距離と個人属性について、観光資源への評価との関係性を(1)～(2)において明らかにし、各資源の保全に対する関心の高い／低い地域を(3)で明らかにした。そのうえで、実際の観光資源管理の主体（自治体、民間組織等）の分布を踏まえ、着地型観光における資源マネジメントに潜在的に関わり得る、または課題を抱える関係者像を、時間距離、個人属性、資源の評価理由等を基に考察した。その結果を基に、SWOT 分析の手法を活用して観光資源の種類毎の資源管理モデルを構築した。多世代参加型のマネジメントにおいては、資源に対する世代間の認識、意識の差を理解、共有したうえで、ミスコミュニケーションを避けながら管理の方針を構想していくこ

とが求められる。そのようなニーズに対しても、自然資源を対象とした補足的な調査を行い、世代間での経験や環境の差異等を起因とした資源管理行動に対する認識の差を分析し、多世代参加型の資源管理行動を促す際に有用な知見を得ることができた。本研究では、論文や学会発表における成果の発信に加えて、国際的な地域資源マネジメントに関する国際プロセスにおいても発信を行っている。具体的には、生物多様性および生態系サービスに関する政府間科学政策プラットフォーム（IPBES）についてはアジア太平洋地域の評価報告書作成に執筆協力者として参画した。また、国連環境計画（UNEP）の若年層向けの地球環境概況（GEO-6）には、第4章の主執筆者として貢献し、地域資源マネジメントに関する研究成果を国際的に還元している。さらに、関連する研究成果として、DMOを対象とした調査分析の結果についても考察を行った。研究期間中に形成した国際ネットワーク等を活用することにより、今後は本研究の分析手法及び結果の国際的な普遍性等を検証することにより、地域資源マネジメントにおける資源と資源管理者や訪問者の関係性に関する理論のさらなる発展にも貢献することを目指す。既にアジア及び欧州地域の研究者と今後の研究計画の立案を進めており、現地での調査が困難となるリスクも考慮しつつ、国際的な研究を深化させることも今後の課題である。

主要研究業績

① Inoue, S., Ito, N., Uchiyama, Y., & Kohsaka, R. (2020). Sustainable Development Utilizing Local Agricultural Resources: A Network Analysis of Interorganizational Collaborations in Tsuruoka, Noto, and Aso in Japan. Japanese Journal of Agricultural Economics, 22, 95-100.

② 井上荘太朗, 伊藤紀子, 高橋克也, 市川容子, 香坂玲, & 内山愉太. (2020). 地域振興における多様な組織の連携構造 鶴岡市における社会ネットワーク分析. 農業経営研究, 57(4), 19-24.

③ Uchiyama, Y., & Kohsaka, R. (2020). Access and use of green areas during the covid-19 pandemic: Green infrastructure management in the “new normal”. Sustainability, 12(23), 9842.

④ Kohsaka, R., Matsuoka, H., Uchiyama, Y., & Rogel, M. (2019). Regional management and biodiversity conservation in GIAHS: Text analysis of municipal strategy and tourism management. Ecosystem Health and Sustainability, 5(1), 124-132.

⑤ Uchiyama, Y., & Kohsaka, R. (2019). Application of the City Biodiversity Index to populated cities in Japan: Influence of the social and ecological characteristics on indicator-based management. Ecological Indicators, 106, 105420.

⑥ 香坂玲, 梶間周一郎, 田代藍, & 内山愉太. (2018). 農林業分野における地理的表示の分析: 産品の時間・空間的多層性と制度の関係性に着目して. 日本知財学会誌, 15(4), 10.

⑦ Uchiyama, Y., & Kohsaka, R. (2017). Spatio-temporal analysis of biodiversity, land-use mix and human population in a socio-ecological production landscape: a case study in the Hokuriku Region, Japan. Procedia engineering, 198, 219-226.

⑧ Uchiyama, Y., Tanaka, Y., Matsuoka, H., & Kohsaka, R. (2017). Expectations of residents and tourists of agriculture-related certification systems: Analysis of public perceptions. Journal of Ethnic Foods, 4(2), 110-117.

⑨ Kajima, S., Tanaka, Y., & Uchiyama, Y. (2017). Japanese sake and tea as place-based products: a comparison of regional certifications of globally important agricultural heritage systems, geopark, biosphere reserves, and geographical indication at product level certification. Journal of Ethnic Foods, 4(2), 80-87.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計32件（うち査読付論文　28件／うち国際共著　4件／うちオープンアクセス　9件）

１．著者名	４．巻
Quevedo Jay Mar D.、Uchiyama Yuta、Kohsaka Ryo	128
２．論文標題 A blue carbon ecosystems qualitative assessment applying the DPSIR framework: Local perspective of global benefits and contributions	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Marine Policy	６．最初と最後の頁 104462～104462
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.marpol.2021.104462	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名	４．巻
Quevedo Jay Mar D.、Uchiyama Yuta、Kohsaka Ryo	1
２．論文標題 Local perceptions of blue carbon ecosystem infrastructures in Panay Island, Philippines	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Coastal Engineering Journal	６．最初と最後の頁 1～21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/21664250.2021.1888558	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名	４．巻
Mitsuyuki Tomiyoshi, Yuta Uchiyama, Ryo Kohsaka	26(2)
２．論文標題 Evaluating plant genetic diversity maintained by local farmers and residents: A comprehensive assessment of continuous vegetable cultivation and seed-saving activities on a regional scale in Japan	５．発行年 2020年
３．雑誌名 The International Journal of Sociology of Agriculture and Food	６．最初と最後の頁 111~142
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.48416/ijsaf.v26i2.433	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名	４．巻
Miyake Yoshitaka、Uchiyama Yuta、Kohsaka Ryo	10
２．論文標題 Status and trends of urban organic agricultural policy in Japan: the survey on ordinance designated cities	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Organic Agriculture	６．最初と最後の頁 497～508
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s13165-020-00311-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kajima Shuichiro、Uchiyama Yuta、Kohsaka Ryo	4．巻 25
2．論文標題 Private forest landowners’ awareness of forest boundaries: case study in Japan	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Journal of Forest Research	6．最初と最後の頁 299～307
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/13416979.2020.1777627	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1．著者名 Uchiyama Yuta、Kohsaka Ryo	4．巻 12
2．論文標題 Access and Use of Green Areas during the COVID-19 Pandemic: Green Infrastructure Management in the “New Normal”	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Sustainability	6．最初と最後の頁 9842～9842
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3390/su12239842	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1．著者名 香坂玲，内山愉太，江原誠	4．巻 35
2．論文標題 生態系サービスと「自然がもたらすもの」（NCP）をめぐる人と自然の関係性: グローバルな科学政策インターフェースのとしてのIPBESを事例に	5．発行年 2020年
3．雑誌名 社会と倫理	6．最初と最後の頁 21~37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1．著者名 Kajima Shuichiro、Uchiyama Yuta、Kohsaka Ryo	4．巻 12
2．論文標題 Intellectual Property Strategies for Timber and Forest Products: The Case of Regional Collective Trademark Applications by Japanese Forestry Associations	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Sustainability	6．最初と最後の頁 1988～1988
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3390/su12051988	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1．著者名 Quevedo Jay Mar D.、Uchiyama Yuta、Kohsaka Ryo	4．巻 191
2．論文標題 Perceptions of the seagrass ecosystems for the local communities of Eastern Samar, Philippines: Preliminary results and prospects of blue carbon services	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Ocean & Coastal Management	6．最初と最後の頁 105181～105181
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.ocecoaman.2020.105181	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Sotaro Inoue, Noriko Ito, Yuta Uchiyama, Ryo Kohsaka	4．巻 22
2．論文標題 Sustainable Development Utilizing Local Agricultural Resources: A Network Analysis of Interorganizational Collaborations in Tsuruoka, Noto, and Aso in Japan	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Japanese Journal of Agricultural Economics	6．最初と最後の頁 95 - 100
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 井上荘太朗，伊藤紀子，高橋克也，市川容子，香坂玲，内山愉太	4．巻 57(4)
2．論文標題 地域振興における多様な組織の連携構造 －鶴岡市における社会ネットワーク分析－	5．発行年 2020年
3．雑誌名 農業経営研究	6．最初と最後の頁 19 - 24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Quevedo Jay Mar D.、Uchiyama Yuta、Kohsaka Ryo	4．巻 25
2．論文標題 Perceptions of local communities on mangrove forests, their services and management: implications for Eco-DRR and blue carbon management for Eastern Samar, Philippines	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Journal of Forest Research	6．最初と最後の頁 1～11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/13416979.2019.1696441	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名	4．巻
Uchiyama Yuta、Kohsaka Ryo	106
2．論文標題	5．発行年
Application of the City Biodiversity Index to populated cities in Japan: Influence of the social and ecological characteristics on indicator-based management	2019年
3．雑誌名	6．最初と最後の頁
Ecological Indicators	105420
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）	査読の有無
10.1016/j.ecolind.2019.05.051	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	－

1．著者名	4．巻
Kohsaka Ryo、Tashiro Ai、Rogel Marie、Uchiyama Yuta	-
2．論文標題	5．発行年
Sustaining Diverse Knowledge Systems in SEPLs: Sharing Tacit Knowledge of Apiculture and Mushroom Production with Future Generations	2019年
3．雑誌名	6．最初と最後の頁
Sharing Ecosystem Services	117～136
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）	査読の有無
10.1007/978-981-13-8067-9_6	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	－

1．著者名	4．巻
Kohsaka Ryo、Matsuoka Hikaru、Uchiyama Yuta、Rogel Marie	5
2．論文標題	5．発行年
Regional management and biodiversity conservation in GIAHS: text analysis of municipal strategy and tourism management	2019年
3．雑誌名	6．最初と最後の頁
Ecosystem Health and Sustainability	124～132
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）	査読の有無
10.1080/20964129.2019.1610336	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	－

1．著者名	4．巻
Doringer Stefanie、Uchiyama Yuta、Penker Marianne、Kohsaka Ryo	28
2．論文標題	5．発行年
A meta-analysis of shrinking cities in Europe and Japan. Towards an integrative research agenda	2019年
3．雑誌名	6．最初と最後の頁
European Planning Studies	1693～1712
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）	査読の有無
10.1080/09654313.2019.1604635	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	該当する

1．著者名	4．巻
Tashiro Ai、Uchiyama Yuta、Kohsaka Ryo	68
2．論文標題 Impact of Geographical Indication schemes on traditional knowledge in changing agricultural landscapes: An empirical analysis from Japan	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Journal of Rural Studies	6．最初と最後の頁 46～53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.jrurstud.2019.03.014	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名	4．巻
KOHSAKA Ryo、UCHIYAMA Yuta、TASHIRO Ai	84
2．論文標題 Loss of traditional knowledge and innovation in the context of shrinking communities and depopulation	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Japanese Journal of Health and Human Ecology	6．最初と最後の頁 214～223
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3861/kenko.84.6_214	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名	4．巻
Tashiro Ai、Uchiyama Yuta、Kohsaka Ryo	5
2．論文標題 Internal processes of Geographical Indication and their effects: an evaluation framework for geographical indication applicants in Japan	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Journal of Ethnic Foods	6．最初と最後の頁 202～210
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.jef.2018.07.004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名	4．巻
Tashiro Ai、Uchiyama Yuta、Kohsaka Ryo	7
2．論文標題 Marine Circular Economy towards Post-Disaster Reconstruction for Sustainability: Experiences in a Small Coastal Town of Northeast Japan	5．発行年 2018年
3．雑誌名 European Journal of Sustainable Development	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14207/ejsd.2018.v7n3p81	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名
Kohsaka, R., Uchiyama, Y.

４．巻
掲載確定　印刷中

２．論文標題
Geographical Indications and Regional Trade Agreements: Facilitating International Partnerships for Sustainable Development, Encyclopedia of the UN Sustainable Development Goals, Partnerships for the Goals.

５．発行年
2019年

３．雑誌名
Book Encyclopedia Chapter Springer Nature

６．最初と最後の頁
-

掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）
なし

査読の有無
有

オープンアクセス
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難

国際共著
－

１．著者名
香坂玲,梶間周一郎,田代藍,内山愉太

４．巻
15(1)

２．論文標題
農林業分野における地理的表示の分析：産品の時間・空間的多層性と制度の関係性に着目して

５．発行年
2018年

３．雑誌名
日本知財学会誌

６．最初と最後の頁
4-10

掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）
なし

査読の有無
無

オープンアクセス
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難

国際共著
－

１．著者名
Kohsaka,R., Kajima,S., Tashiro,A., Uchiyama,Y., Park,MS.

４．巻
掲載確定　印刷中

２．論文標題
Analysis of Geographical Indications in agriculture and forestry: Focusing on the spatio-temporal multilayer of local products

５．発行年
2018年

３．雑誌名
Proceedings of the 2018 Circular Economy Conference

６．最初と最後の頁
-

掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）
なし

査読の有無
無

オープンアクセス
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難

国際共著
－

１．著者名
Uchiyama Yuta、Kohsaka Ryo

４．巻
198

２．論文標題
Spatio-temporal Analysis of Biodiversity, Land-use Mix and Human Population in a Socio-ecological Production Landscape: A Case Study in the Hokuriku Region, Japan

５．発行年
2017年

３．雑誌名
Procedia Engineering

６．最初と最後の頁
219～226

掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）
10.1016/j.proeng.2017.07.086

査読の有無
有

オープンアクセス
オープンアクセスとしている（また、その予定である）

国際共著
－

1．著者名 Kohsaka Ryo、Uchiyama Yuta	4．巻 198
2．論文標題 Motivation, Strategy and Challenges of Conserving Urban Biodiversity in Local Contexts: Cases of 12 Municipalities in Ishikawa, Japan	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Procedia Engineering	6．最初と最後の頁 212～218
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.proeng.2017.07.085	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Kohsaka Ryo、Park Mi Sun、Uchiyama Yuta	4．巻 4
2．論文標題 Beekeeping and honey production in Japan and South Korea: past and?present	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Journal of Ethnic Foods	6．最初と最後の頁 72～79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.jef.2017.05.002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Uchiyama Yuta、Tanaka Yushi、Matsuoka Hikaru、Kohsaka Ryo	4．巻 4
2．論文標題 Expectations of residents and tourists of agriculture-related certification systems: analysis of public perceptions	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Journal of Ethnic Foods	6．最初と最後の頁 110～117
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.jef.2017.05.003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Uchiyama Yuta、Matsuoka Hikaru、Kohsaka Ryo	4．巻 4
2．論文標題 Public recognition of traditional vegetables at the municipal level: Implications for transgenerational knowledge transmission	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Journal of Ethnic Foods	6．最初と最後の頁 94～102
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.jef.2017.05.007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Gugerell Katharina、Uchiyama Yuta、Kieninger Pia R.、Penker Marianne、Kajima Shuichiro、Kohsaka Ryo	４．巻 4
２．論文標題 Do historical production practices and culinary heritages really matter? Food with protected geographical indications in Japan and Austria	５．発行年 2017年
３．雑誌名 Journal of Ethnic Foods	６．最初と最後の頁 118～125
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.jef.2017.05.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

１．著者名 Kajima Shuichiro、Tanaka Yushi、Uchiyama Yuta	４．巻 4
２．論文標題 Japanese sake and tea as place-based products: a comparison of?regional certifications of globally important agricultural heritage?systems, geopark, biosphere reserves, and geographical indication at product level certification	５．発行年 2017年
３．雑誌名 Journal of Ethnic Foods	６．最初と最後の頁 80～87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.jef.2017.05.006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Kizos Thanasis、Kohsaka Ryo、Penker Marianne、Piatti Cinzia、Vogl Christian Reinhard、Uchiyama Yuta	４．巻 119
２．論文標題 The governance of geographical indications	５．発行年 2017年
３．雑誌名 British Food Journal	６．最初と最後の頁 2863～2879
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1108/BFJ-01-2017-0037	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

１．著者名 香坂玲・内山愉太	４．巻 81(4)
２．論文標題 都市生物多様性指標の国際的動向～世界の都市は指標をどう活用しているか	５．発行年 2018年
３．雑誌名 ランドスケープ研究	６．最初と最後の頁 336-339
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計43件（うち招待講演　3件／うち国際学会　25件）

１．発表者名 内山愉太，香坂 玲
２．発表標題 新型コロナウィルス感染症拡大期の山地・森林の利用・訪問状況に関する考察
３．学会等名 第132回日本森林学会大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 香坂玲，内山愉太
２．発表標題 森林環境譲与税を活用した都道府県による 市町村支援の概況と課題
３．学会等名 第132回日本森林学会大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 内山愉太，高取千佳，香坂玲
２．発表標題 バイオミメティクスと生物多様性保全に対する一般市民の意識分析
３．学会等名 日本学術大会 第18回年次学術研究発表会
４．発表年 2020年

１．発表者名 香坂玲，内山愉太，鈴木睦昭
２．発表標題 生物多様性条約の伝統的知識を巡る概況
３．学会等名 日本学術大会 第18回年次学術研究発表会（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名
内山愉太，香坂 玲

２．発表標題
グリーンインフラとコロナ禍での行動変容

３．学会等名
第３回研究連携オンラインセミナー 名古屋大学大学院 環境学研究科 減災連携研究センター（招待講演）

４．発表年
2020年

１．発表者名
Ryo Kohsaka, Yuta Uchiyama, Yoshitaka Miyake, Yoshiaki Nishikawa, Kazuo Watanabe

２．発表標題
Transmission of traditional knowledge as multi-scale commons with geographical boundaries: Use of geographical indications and application of convention theory

３．学会等名
IASC-RIHN ONLINE WORKSHOP ON COMMONS, POST-DEVELOPMENT AND DEGROWTH IN ASIA（国際学会）

４．発表年
2020年

１．発表者名
Yoshitaka Miyake, Yuta Uchiyama, Ryo Kohsaka

２．発表標題
The comparative analysis of the expansion of organic agriculture and the preservation of commons in Japan and Europe through convention theory

３．学会等名
IASC-RIHN ONLINE WORKSHOP ON COMMONS, POST-DEVELOPMENT AND DEGROWTH IN ASIA（国際学会）

４．発表年
2020年

１．発表者名
Kohsaka, R., Miyake Y., Uchiyama Y,

２．発表標題
Facilitating rural development and sustainability with GI: From tradition, to environment with products, to place-based GIAHS registration

３．学会等名
From local to global, the challenge of Geographical Indications: International and Japanese perspectives（招待講演）（国際学会）

４．発表年
2020年

１．発表者名
Ryo Kohsaka, Yuta Uchiyama, Kaoru Kakinuma, Jay Mar, D. Quevedo, Kevin Muhamad Lukman

２．発表標題
Application of REDD+ scheme for Blue Carbon Ecosystem Management: Potentials and Challenges

３．学会等名
XXV IUFRO World Congress（国際学会）

４．発表年
2019年

１．発表者名
Ryo Kohsaka, Yuta Uchiyama

２．発表標題
Transmission of traditional knowledge for production of non-timber forest products: explicit knowledge and Geographical Indication

３．学会等名
Transforming Approaches to Forests & Forestry through Traditional and Local Knowledges（国際学会）

４．発表年
2019年

１．発表者名
Jay Mar Quevedo, 香坂玲, 内山愉太

２．発表標題
Ecosystems services of Mangrove Ecosystems from local perspectives: utilization and awareness in the municipalities of Aklan and Eastern Samar, Philippines

３．学会等名
熱帯生態学会 第29回

４．発表年
2019年

１．発表者名
香坂 玲, 内山愉太

２．発表標題
愛知目標・SDGsにおける指標間の関係性と民間参画推進に向けた科学・政策対話、学術研究の総合的解析

３．学会等名
環境経営学会第19回定期総会

４．発表年
2019年

1．発表者名 香坂玲、梶間周一郎、内山愉太
2．発表標題 林産品と地理的表示の保護制度：国際情勢と岩手県の切炭を事例として
3．学会等名 第130回日本森林学会大会
4．発表年 2019年

1．発表者名 梶間周一郎、内山愉太、香坂玲
2．発表標題 自治体林政の政策波及：森林環境税と森林づくり条例を事例に
3．学会等名 第130回日本森林学会大会
4．発表年 2019年

1．発表者名 柿沼薫、内山愉太、梶間周一郎、香坂玲
2．発表標題 極端な気象現象による人々の移動：アジアにおける比較
3．学会等名 日本生態学会第66回全国大会
4．発表年 2019年

1．発表者名 Inoue, S., Ito, N., Uchiyama, Y. and･Kohsaka, R.
2．発表標題 Sustainable Development Utilizing Local Agricultural Resources: Network Analysis among Social Organizations in Tsuruoka, Noto and Aso Area in Japan
3．学会等名 2019 Annual Conference of Agricultural Economics Society of Japan
4．発表年 2019年

１．発表者名 Rogel M., Montemayor G., Uchiyama Y., Kohsaka R.
２．発表標題 Citizen Science for Forest Biodiversity Conservation: What Shapes Intention to Participate?
３．学会等名 2019 Citizen Science Association Conference（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Rogel M., Montemayor G., Uchiyama Y., Kohsaka R.
２．発表標題 Human-Nature Perspectives and Intention to Participate: Engaging Forest Dwellers in Citizen Science for Biodiversity Conservation
３．学会等名 15th International Conference on Environmental, Cultural, Economic & Social Sustainability（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 香坂　玲、松岡光、内山愉太
２．発表標題 遺伝資源をめぐる利益配分に関する国際的な研究動向と論文ネットワークの考察：遺伝資源、遺伝子情報の持続可能な活用に向けて
３．学会等名 日本知財学会第16年次学術研究発表会
４．発表年 2018年

１．発表者名 梶間周一郎,内山愉太,香坂玲
２．発表標題 農林水産品の知的財産保護政策の政策過程：アジアにおける地理的表示政策を題材に
３．学会等名 日本知財学会第16年次学術研究発表会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Kohsaka R., Tashiro A., Uchiyama Y.
２．発表標題 Municipal urban biodiversity managements with participation of citizens and collaboration of multiple sectors: Challenges and potentials
３．学会等名 Urban Transitions 2018（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Uchiyama Y., Tashiro A., Kohsaka R.
２．発表標題 Sustainable managements of green and blue infrastructures in urban areas with rapid aging: Citizens' attitudes toward their neighbouring environment
３．学会等名 Urban Transitions 2018（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Tashiro A., Uchiyama Y., Kohsaka R.
２．発表標題 Residents' preferable option for Green infrastructure: A case study of disaster-stricken urban areas, Japan
３．学会等名 Urban Transitions 2018（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 梶間周一郎、内山愉太、香坂玲
２．発表標題 自治体の森林環境税の導入動態-階層的クラスター分析を用いたアプローチ-
３．学会等名 林業経済学会2018年秋季大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Kohsaka, R., Uchiyama, Y.
２．発表標題 Non-market food provisioning services via communal sharing and use of Geographical Indications in satoyama socio-ecological production landscapes on Japan's Noto peninsula
３．学会等名 World Social Science Forum（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Kohsaka R., Kajima, S., Uchiyama, Y.
２．発表標題 Citizen science and science-policy interface: Towards sustainable forest managements
３．学会等名 10th International Conference on Ecological Informatics（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 井上荘太朗、伊藤紀子、高橋克也、市川容子、内山愉太、香坂玲
２．発表標題 地域振興における多様な組織の連携構造-鶴岡市における社会ネットワーク分析
３．学会等名 日本農業経営学会2018年研究大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Uchiyama, Y., Kohsaka, R.
２．発表標題 How Does Accessibility Affect the Perceived Values by Visitors of Tourism Resources? Quantitative Analysis of Academic Literature of MAB and GIAHS
３．学会等名 COMSA 2018: The 5th Conference on Management and Sustainability in Asia（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 内山愉太、梶間周一郎、香坂玲、小柴有理江、井上荘太朗、伊藤紀子、浅井真康
２．発表標題 持続可能な農村地域メンジメントに資する社会組織のネットワーク構造～能登の世界農業遺産認定地域を対象として～
３．学会等名 2018年度日本フードシステム学会大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Kajima, S., Tashiro, A., Uchiyama, Y., Kohsaka, R.
２．発表標題 Diffusion of Forest Policy towards Sustainable Use and Governance of Natural Resources: Event History Analysis of Regional Forest Policy in Japan
３．学会等名 2018 Circular Economy for Agri-Food Resource Management（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Tashiro, A., Uchiyama, Y., Kohsaka, R.
２．発表標題 Marine Circular Economy towards Community-Based Post-Disaster Reconstruction: Experience of a Small Coastal Town, Northeast Japan
３．学会等名 2018 Circular Economy for Agri-Food Resource Management（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Uchiyama, Y., Tashiro, A., Kajima, S., Kohsaka, R.
２．発表標題 REDD+ for Blue Carbon Ecosystems: A Literature Review
３．学会等名 2018 Circular Economy for Agri-Food Resource Management（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名
Kohsaka, R., Kajima, S., Tashiro, A., Uchiyama, Y., Park, MS.

２．発表標題
The Political Ecology of Regional Names on Agricultural Products; Governing Boundaries and Qualities through Geographical Indications

３．学会等名
2018 Circular Economy for Agri-Food Resource Management（国際学会）

４．発表年
2018年

１．発表者名
Lukman, K. M., Uchiyama Y., Kohsaka R.

２．発表標題
Community Based Management of Mngrove Ecosystem in Java Island

３．学会等名
日本評価学会春季第15回大会

４．発表年
2018年

１．発表者名
市川智子、内山愉太、田代藍、香坂玲

２．発表標題
Trends Academic discourse of environmental ODA: Quantitative Approaches in review research

３．学会等名
日本評価学会春季第15回大会

４．発表年
2018年

１．発表者名
Uchiyama, Y., Kohsaka R.

２．発表標題
Why urban biodiversity matters? The motivations for cities to develop conservation and education programs

３．学会等名
The 8th EAFES International Congress（国際学会）

４．発表年
2018年

１．発表者名
Y. Uchiyama, R. Kohsaka

２．発表標題
How much are biodiversity mainstreamed in urban municipalities? Status of mainstreaming efforts with urban biodiversity indicators in major Japanese cities

３．学会等名
The International Society for Ecological Modelling Global Conference 2017（国際学会）

４．発表年
2017年

１．発表者名
R. Kohsaka, Y. Uchiyama

２．発表標題
Status of Apiculture and effects of ecological conditions in Japan: How knowledge of beekeeping is transmitted in inter-generational manner

３．学会等名
The International Society for Ecological Modelling Global Conference 2017（国際学会）

４．発表年
2017年

１．発表者名
R. Kohsaka, Y. Uchiyama

２．発表標題
Schemes of Benefit Sharing in alternative livelihood strategies: Potential of Geographical Indications of Non Timber Forest Products

３．学会等名
International Union of Forest Research Organizations 125th Anniversary Congress（国際学会）

４．発表年
2017年

１．発表者名
R. Kohsaka, Y. Uchiyama

２．発表標題
Spatial analysis of forest environmental tax as a scheme of Payment for Ecosystem Service: Suggestions to the REDD+

３．学会等名
International Union of Forest Research Organizations 125th Anniversary Congress（国際学会）

４．発表年
2017年

1．発表者名 Y. Uchiyama, R. Kohsaka
2．発表標題 Analysis on accessibility of urban forest: Towards enhancement of well-being in urban regions
3．学会等名 The 3rd International Conference on Landscape and Human Health: Forests, Parks and Green Care（国際学会）
4．発表年 2017年

1．発表者名 R. Kohsaka, Y. Uchiyama
2．発表標題 Local strategies on conservation of urban biodiversity: Relationships between the conservation and sustainable urban forest management for quality of life
3．学会等名 The 3rd International Conference on Landscape and Human Health: Forests, Parks and Green Care（国際学会）
4．発表年 2017年

1．発表者名 R. Kohsaka, Y. Uchiyama, A. Tashiro, M. Sun, Park
2．発表標題 Sustinable Tourism Managements with Regional Designations Experience from Rural Areas in Japan
3．学会等名 The 83rd TOSOK International Tourism Conference（国際学会）
4．発表年 2017年

〔図書〕　計2件

1．著者名 内山愉太，香坂玲	4．発行年 2021年
2．出版社 シーエムシー出版	5．総ページ数 367
3．書名 バイオミメティクス・エコミメティクス―持続可能な循環型社会へ導く技術革新のヒント― 第5章 生物多様性とバイオミメティクス	

１．著者名 内山愉太	４．発行年 2019年
２．出版社 勉誠出版	５．総ページ数 264
３．書名 縮小する日本社会（第2章　人口減少期の国土計画―ストーリーからデータへ）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	香坂　玲 (Kohsaka Ryo) (50509338)	東京大学・大学院農学生命科学研究科・教授	
研究協力者	佐野　浩祥 (Sano Hiroyoshi) (50449310)	東洋大学・国際観光学部・教授	
研究協力者	飯田　義彦 (Ida Yoshihiko) (90774802)	筑波大学・芸術系・准教授	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関